

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立豊新小学校

令和 7 年 3 月

(様式 1)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校教育目標

- ◇豊かな心で、語り合うことのできる子どもを育てる
- ◇新たな知を拓き、真実を学び続ける子どもを育てる
 - ・たくましい身体になる子ども
 - ・ゆたかな心をもつ子ども
 - ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標

現状と課題

【生活について】

本校では、児童たちが素直で明るく、元気よくあいさつできる児童が多い。最近では、問題行動が目立つことなく、安定した学校生活ができている。さらに、児童会が活発で、主体的に行事を企画し、学校生活をより楽しく、充実したものにするために積極的に取り組むことができている。アイデアと行動力によって、学校全体が活気にあふれ、児童たちがより楽しい時間を過ごせるようになっている。そのような取り組みから高学年児童は、低学年児童に優しい心を持って接し、低学年児童は高学年児童に対して尊敬の念を持って親しんでいる。保護者や地域も学校の教育活動に多大なる支援・協力を得ることができている。

【学習について】

日々の学習活動で、「言語活動の充実」を目指した研究をベースとし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指し、計算力向上を目的とした反復学習に取り組んでいく。令和 5 年度における全国学力・学習状況調査の結果、国語科は全国平均を上回ることができたが、算数科は全国平均をわずかに下回った。そこで、ICT を効果的に活用した学習を取り入れながら、課題に対し、自主的に解決できる授業を実践していく。さらに教科横断型となる教育課程の工夫をし、「主体的・対話的で深い学び」の実践を重ねながら、学力向上を目指す。また、外国語活動については、学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着を図りながら、意欲を高めていく。

体力向上に関しては、各学年とも跳躍力や持久力、俊敏性の向上を目指した指導を展開していく。令和 5 年度より、体育活動に制限がなくなったが、コロナ禍のために運動をする機会が減ってしまっていることから、児童の体力の低下が懸念される。令和 5 年度の全国体力・運動能力調査では合計点が 53.19 と大阪市の平均を上回った。しかし、コロナ前と比較すると（令和元年度 55.7）2.51 下回っている。この結果から、児童の体調面を配慮し、運動量の確保する体育科授業の推進、楽しく運動に取り組むきっかけ作りを行い、積極的に運動をする意欲の向上を図っていく必要がある。

日々の教育活動や行事等を通して、自己肯定感や自尊感情を高めることで、他者を思いやる豊かな心を育み、真実を学び続けられるようにする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 中期①** 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を83%以上にする。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 中期②** 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 中期③** 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中期①** 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合40%以上にする。(施策4 誰一人取り残さない学の力向上)
- 中期②** 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。(施策4 誰一人取り残さない学の力向上)
- 中期②** 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- 中期③** 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上にする。(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- 中期④** 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。(施策5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

- 中期①** 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。(基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)
- 中期②** 令和7年度末にゆとりの日について、週1回設定する。学校閉序日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。(基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)
- 中期③** 令和7年度末の校内調査の「学校は保護者や地域と連携し、協力し合えている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和3年度より3ポイント増加させる。(基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○令和6年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。R5 91.2% R6 91.3%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。R5 0.02

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

R6 0.017

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。R5 11.1%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

R6 20%

学校の年度目標

○令和6年度の校内調査「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上を維持する。R5 95% R6 97%

（基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現）

○令和6年度の校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和5年度より3%増加させる。

R5 53% R6 51%

（基本的な方向2 豊かな心の育成）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。R5 35.3% R6 42.1%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

R5 国語 1.01 算数 0.93 R6 国語 0.99 算数 0.95

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。R5 87% R6 80.3%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。R5 92% R6 88%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

（施策5 健やかな体の育成）

R5 69% R6 68.5%

学校の年度目標

○令和6年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。R5 64% R6 57%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和6年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。R5 94% R6 96%
(基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)
- ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

R5 夏季3日 冬季3日

R6 夏季4日 冬季3日

学校の年度目標

- 令和6年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。R5 81% R6 83% (基本的な方向8 生涯学習の支援)
- 令和6年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。R5 93% R6 97%
(基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)
- 令和6年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合えている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和5年度より1ポイント増加させる。
R5 93% R6 94%

(基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)

3 本年度の自己評価結果の総括

児童は互いに学び合い、支え合う喜びを実感しながら、学ぶ楽しさを深めていった。日々の授業や学校行事を通じて、主体的に考え、意欲的に取り組む姿勢が育まれた。教職員もまた、積極的に研修や自己研鑽に励み、指導力の向上に努めたことで、より質の高い教育活動を展開することができた。

本年度も、行事や課外活動を制限することなく実施でき、児童の多様な学びの機会を確保することができた。全国学力調査および大阪市学力経年調査では、一部の学年・教科において大阪市平均や全国平均を上回る成果が見られたものの、依然として児童の学力向上が課題として残る。しかしながら、継続的な取り組みにより、学力の向上が一過性のものではないことも確認した。

全国体力運動能力調査においては、今年度も男女ともに全国平均と同等またはそれ以上の結果を示し、学校教育と地域スポーツの連携が子どもたちの健やかな成長に寄与していることを実感した。一方で、年度当初に掲げた目標の中には達成に至らなかったものもあるが、高い目標を設定していたことを考慮すると、その成果は一定の評価に値すると考える。学力面においては、さらなる学習支援の充実が求められるが、児童が心豊かに成長している点を踏まえ、総じて本年度の取り組みは妥当なものであったと自己評価する。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85 % 以上にする。 <u>R5 91.2% R6 91.3%</u> ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <u>R5 0.02 R6 0.017</u> ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <u>R5 11.1% R6 20%</u> 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめアンケートを定期的に実施し、当該児童から聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していくとともに、日常的にいじめはどんな理由があってもいけないことだと指導を継続していく。</p>	A
<p>指標 学期に 1 度以上、いじめアンケートを実施。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り対応する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有しながら支援を継続していく。</p>	B
<p>指標 月に 1 回、生活指導部会及び児童理解研修を実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>ICT の活用等による、本人、保護者と学校がつながる回数を増やす。</p>	B
<p>指標 週に 1 回以上クロームブックや電話、放課後登校等を行い、本人、保護者とのつながる機会を年間を通して設ける。</p>	

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学期に一度以上、いじめアンケートを実施することができた。(1 学期 : 1 回、2 学期 : 2 回、3 学期 : 1 回) 校内調査「いじめはどんな理由があってもいけないことがありますか」の項目において、最も肯定的な回答が 93% と指標を大きく上回っている。いじめアンケートの実施を通して、丁寧な聞き取りを行い、事案の解消につなげることができた。
- ② 月に 1 回、生活指導部会及び児童理解研修会を実施することができた。生活指導上の配慮事項や児童対応について共通理解の必要な場合も適宜機会を設けた。教職員間の情報共有だけでなく、関係機関との連携も取ることができた。

③ 週に1回以上クロームブックや電話、放課後登校等を行い、本人、保護者とのつながる機会を、年間を通し実施した。特に、学校との関わりが持ちにくい家庭には、家庭訪問やポスティング等を行い、関係の継続、改善に努めることができた。

次年度への改善点

- ① 今後も継続して、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識付けを行う必要がある。いじめアンケートは、今年度と同様の回数を実施していく。
- ② 細やかに児童理解を深めるために、「心の天気」「いいところみつけ」を通じて、そこから児童の心の状態や日々の生活状況を把握・共有し、必要に応じて関係機関とともに指導していく。
- ③ 個別の課題をそれぞれの児童が抱えているため、その課題に寄り添うことができるサポート体制の構築が必要になってくる。関係機関や家庭との連携、個別指導ルームの活用等を図っていく。また、学校とのつながりが難しい児童には、フリースクールや地域活動等、学校以外での社会とのつながりがもつことができるよう支援していく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90 %以上維持する。 R5 95% R6 95.6% (経年) R6 97% (校内) 令和 6 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 5 年度より 2% 増加させる。 R5 53% R6 40.9% (経年) R6 51% (校内) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>社会や集団生活でのルールについて全教職員で日常的に指導する。</p> <p>指標 「豊新学びのきまり」に基づき指導に当たる。毎週児童朝会を実施し、月目標や週目標を伝え、指導・支援をする。安全教育の充実を図るために、研修や実践を学期に 1 回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>体験活動等で得た達成感や充実感をキャリアパスポート等を活用し振り返り、自己有用感の育成を図る。</p> <p>指標 学期に 2 回、キャリアパスポート等で目標の設定と振り返りを実施する。</p>	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 「豊新学びのきまり」に基づいた指導を行い、毎週の児童朝会で月目標や週目標を伝えながら、指導や支援を適切に実施できた。また、大阪教育大学附属池田小学校の先生による安全教育や警察の方による非行防止教室を通して、児童一人一人が安全・安心に過ごすための具体的な方法を考えることができた。</p> <p>② 体験活動で得た達成感や充実感をキャリアパスポート、ワークシート、作文、話し合い活動などを活用して振り返り、自己有用感を育むことができた。さらに、学期に 2 回の振り返り活動を通じて、目標の設定や達成状況を見直す機会を児童に提供することができたが、「自分にはよいところがあるとおもいますか」では、経年・校内調査とともに目標には届かなかった。</p>

次年度への改善点
<p>① 「豊新学びのきまり」や校内での指導について教職員で共通理解を図り、指導の一貫性をより一層保つことで目標達成の維持につなげていく。また、引き続き、安心・安全を意識した行動ができるよう、『月目標・週目標』を児童朝会で、児童に周知していく。</p> <p>② キャリアパスポートの活用だけではなく、様々な学習や行事から児童の自尊感情を高める指導・支援を実施していく。また、児童会が中心となっている『あいさつデー』以外にも、自発的な意思に基づいた指導ができるように計画をしていく。</p>

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 38 %以上にする。 R5 35.3% R6 42.1% ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 R5 国語 1.01 算数 0.93 R6 国語 0.99 算数 0.95 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88 %以上にする。 R5 87% R6 80.3% ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90 %以上にする。 R5 92% R6 88% 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れ、多くの場面で考えを深め合ったり、伝え合ったりできるように工夫し、学習したことを振り返る活動を取り入れる。</p>	B
<p>指標 対話の目標をもとに 1 日 1 回、学習の中で話し合う活動を実施する。また、学習の中で振り返る活動を取り入れる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援などを行う。</p>	B
<p>指標 単元ごとに習熟を図るため調査を実施し、個々の進捗状況を把握する。学習ドリルなどを、やり直しを含め丁寧に実施し、週に 1 度必ず点検する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>I C T 機器を活用しながら、理科的な見方・考え方興味を持たせる。学習の見通しをもって観察・実験を行い、児童自身でまとめる活動を取り入れる。</p>	B
<p>指標 単元ごとに、学習者用端末等を使用し、観察や実験結果を記録したものから学習のまとめを実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を</p>	B

充実させる。

指標 外国語活動・英語教育の教員研修会を年3回実施する。

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 単元や題材に合わせてペア、グループ活動を取り入れ、児童同士が考えを伝え合い、深め合える対話的な授業となるように実施することができた。校内で共通した話型を使用し、自分の考えを伝えるだけでなく、違いや同じ考え方を伝えることもできるようになっている。校内アンケートの結果「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目では、最も肯定的な答えが53%であり、中間より1%低下したがほぼ維持することができた。また、経年調査の結果は42%と目標を達成することができた。
- ② 算数科においては、単元ごとに習熟度を測るための調査を実施し、習熟度別学習を行い、個々の学力状況や進捗状況を把握することができた。(4~6年生) また、学習ドリルの点検を毎日行い、やり直しを丁寧に指導することで、学習内容の定着を図ることができた。理解が十分ではない児童については、個人指導や反復学習をし、授業についていきやすい環境を整えることができた。
- ③ 学習者用端末を使用し、植物の観察記録を写真や動画で撮り、学習のまとめに活かしている。単元によって、ロイロノートを用いて、予想を立てたり、結果を撮影し共有したりするなどの効果的な使い方ができた。しかし、経年調査「理科の勉強は好きですか」の項目において、8%も数値が届かなかった。
- ④ 教員研修会や東淀川区の研究授業などを年3回実施し、教員の授業力向上に努めることができた。英語教育では、歌やゲーム、グループワーク、インタビュー活動を取り入れることで、児童が楽しみながら自然に英語を使うことができていた。児童が主体的に取り組み、言語や文化への興味や達成感を感じられる授業を実現できた。そうすることで、外国語活動やモジュール活動に興味関心を持つことができ、校内調査「外国語活動は楽しいですか。」において94%の児童が肯定的に答えている。研修会についても、目標通り実施することができた。【外国語研修会(6月)、イングリッシュデイ(8月)、英語実践授業(1月)】経年調査結果では、88%とあと少し、目標に届かなかったが、大阪市の回答平均より20%とかなり高い水準を達成することができた。

次年度への改善点

- ① 単元や題材に応じてペア学習・グループ学習を取り入れた授業を構成していく。多くの場面で対話的な活動ができるよう、引き続き工夫していく。
- ② 児童一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ学習、反復学習、家庭学習支援等を引き続き行っていく。
- ③ 今後もICT機器を活用し、問題解決的な学習を主体的に取り組んでいく。見通しや目的意識をもった観察・実験を行い、結果を考察しながら自然事象についての知識や理解を深めていく。
- ④ 引き続き、英語専科とC-NETの授業を参考にしたり研修会をしたりする等、外国語活動・英語教育の指導法の工夫を共有し、児童の興味・関心を高めるとともに、担任による外国語活動・英語教育の指導力向上に努めていく。また、モジュール学習において、DREAM教材以外の学習活動(歌やゲーム)の具体例や教材を提示するなど学習の幅をもっと広げられるように教員の学びの機会を増やしていく。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70 %以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>運動の日常化のために、児童が意欲的に体を動かそうとする活動や運動強調週間を実施する。</p>	B
<p>指標 学校生活アンケート「外で体を動かすことが好きですか」に対して、最も肯定的な「そう思う」を回答する児童の割合を 50 %以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>保健学習や保健週間の設定において、健康で安全な生活態度や習慣を向上させる取り組みを行う。</p>	B
<p>指標 年 1 回以上の性教育を実施する。9 月と 1 月に「手洗い強調週間」を行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>栄養指導や給食指導において、食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行う。</p>	B
<p>指標 食に関する指導(2回)や豊新の森を活用した活動(1回)を年に合計 3 回以上行う。</p>	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①学校生活アンケート「休み時間に外で体を動かすことが好きですか」の項目において最も肯定的な回答は 67 %と指標を上回った。年間計画通り『なわとび週間』や『かけあし週間』を実施した。様々な取り組みを通して自発的に運動することの楽しさを意識できたことが、指標を上回った要因と考える。
- ②年度当初に「性に関する指導」の年間指導計画をたてた。全学年計画通り実施し、1 月 28 日に「性に関する指導報告会」を行った。また、9 月と 1 月に保健委員会を中心とした『手洗い強調週間』を実施、1・2・3 学期には、『清潔調べ』を行う等、健康で安全な生活態度や習慣を身につけさせるように指導を工夫した。
- ③各学年、年 2 回の栄養指導、豊新の森を活用した活動、(1 年生・6 年生: 収穫感謝祭、栗拾い、2 年生: おいもパーティー、3 年生: 柿試食会、4 年生: 季節の生き物木の 1 年、5 年生: 米作り、なかよし学級: 梅、杏子を収穫しシロップ作り、梅干し作り、全学年: みかんの収穫)、給食委員会が企画した『給食週間』等を通して食に対する楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養うことができた。

次年度への改善点

- ①引き続き、運動強調週間である『なわとび週間』と『かけあし週間』を実施していく。また、運動委員会を中心に、場の工夫や縦割り班等での異学年交流を取り入れた活動を行う。互いに教え合い、高め合いながら運動に親しみを持てる児童を増やす。
- ②次年度へ引継ぎ、系統立てて学習を行うことができるようするため、指標を『性教育』から『性に関する指導』に変更する。手を洗うことは健康維持につながることから『手洗い強調週間』を引き続き実施していく。実施期間を運動強調週間と合わせて、屋外での活動後には手洗い・うがいをするという意識を身に付けさせていく。
- ③栄養教諭による栄養指導だけではなく、『献立表』や『食育だより』、『食育ポスター』等、食に関する指導を継続していく。今後も食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ・令和 6 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を 65 %以上にする。 R5 64% R6 57%	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。	B
指標 教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を 8 回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 主体的、対話的な活動を取り入れ、児童が自分の考えを持ち、交流を通じて考えを広げる場を設定する。	B
指標 話型をもとに言語活動の充実を図り、1 日 1 回以上、話し合う活動を取り入れる。	
取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 年 3 回学力向上 week を実施し、児童の学力向上につなげる。	B
指標 学期に 1 回の学力向上 week (1 学期に「計算領域」、2 学期に「計算領域」、3 学期に「漢字」) を実施する。	B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 校内調査「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的な回答は 57% と指標をかなり下回っている。一方、肯定的な回答（全体的に「理解できる」と答える児童は 93% に達していることから、多くの児童が授業を理解している。中間より継続して、授業内容の工夫（具体例や視覚資料の活用、学習内容の復習や確認）、個別支援とフォローアップ（個別指導やピアラーニング[児童同士の教え合い]）を行なながら、保護者との連携を図ることができた。しかし、目標を達成することができなかった。研究授業および研修会については、計画通り実施することができた。
② 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しをもったり、学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できるような場面を取り入れている。また対話的な活動では、児童同士で意見を発表し聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりする場面を取り入れている。昨年度より、学力向上部を中心に話型の統一を図り、児童にも定着してきている。
③ 学期に 1 回の学力向上 WEEK を計画的に実施することができている。週間の最終日にまとめテストを実施し、合格点に達することができれば表彰している。目標を達成するために家庭学習やプリント学習を、大変意欲的に取り組むことができていた。

次年度への改善点

- ① 引き続き研究授業および研修会を実施していく。また、児童が主体的に取り組み、できた達成感を感じられる指導法の研究を進めていく必要がある。また、「授業の内容は理解できる」という項目はすべての教科を対象としていることから最も肯定的に答えづらい部分もあるため、肯定的に答える割合にしていくまたは、1教科に絞って集計を取るなど工夫をしていく必要がある。
- ② 経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目において、もっとも肯定的に答える児童の割合が大阪市の平均を2%上回ったり、肯定的に答える児童が80%もいたりすることから、本校では主体的に対話的な活動が行われていると考えられる。今後も、算数科における問題の見通しや考え、クロームブックを活用してのペア・グループ活動を多く取り入れていくなど、授業内容の理解とつながるような対話を進めていくことが重要である。また、次年度より総合的読解力の育成の学習でも、各教科と関連付けて、文章の読解や要約を行う活動を取り入れて、これまで以上に主体的に対話的な学びを推進できるよう計画を立てていく。
- ③ 校内の研究教科に関連付けた「学力向上WEEK」の実施で、基礎基本の定着を図り、学力の底上げをしていく。少しでも、問題に慣れることで自信を持って問題に取り組めるようにする。次年度で、取り組みが3年目となるため、1・2年目の実施結果を分析し、基礎・基本だけで進めていくのかどうか、期間を一週間にせず頻度を増やし定期的に行っていくのかどうか等、学力向上部を中心に検討していく必要がある。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。 <p>R5 94% R6 96%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。 <p>R5 夏季3日 冬季3日 R6 夏季3日 冬季2日</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 5 DX (デジタルトランスフォーメーションの推進)】 ICT (心の天気、デジタルドリルなど) を活用した教育を推進する。	A
指標 授業の中で学習者用端末1日1度以上使用する。	
取組内容②【基本的な方向番号 6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。	B
指標 ゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外においては1日以上設定する。	

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 1年生は2学期ごろから、2～6年生では、1学期当初から授業で学習者用端末の活用を積極的に行うことができた。夏季には、ICT研修会も行い、教職員のICT活用も広まり、各学年の児童の実態に応じた取り組みを行うことができた。児童も学習道具の一つとして、スムーズに授業で活用することができており、タイピングも上手になり、ロイロノートやクラスルーム、キャンバ、心の天気など学習ツールを使いこなすことができている。児童が毎日学習においてインターネットを活用できるよう各学年の児童の実態に応じた取り組みを行ってきた。調べ学習や自主学習などでは、自分の興味に応じて、情報を取捨選択し、調べた内容を自分なりにまとめる力がついてきた。その結果、ICT使用率が市内の学校でも最上位区分に入り、令和6年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にすると目標を掲げたが年度末での結果は96%であったため、目標を達成することができている。</p> <p>② 以前より、勤務内容が精選され、会議時間や勤務時間も短縮傾向にある。「ゆとりの日」を週1回設定し、夏季休業期間中に学校閉庁日を4日、冬季休業期間中に2日設けることで、教職員がゆとりを持って業務に取り組める環境を整えることができた。</p>

次年度への改善点

- ① 次年度も「学びを支える教育環境の充実」を目指し、DX（デジタルトランスフォーメーション）の一層の推進に向け、教職員も新しい知識や活用を充実できるような研修を継続して受けていくことが必要である。ICT の活用について、教職員で共通理解を図っていく。クロームブックの使用年数の経過、及び児童が大切に扱わない使用方法もあり、シール剥がれや落下による破損、水筒を端末上に置きこぼれたことによる水没などによる故障が見られたため、次年度扱い方について共通理解を図っていく。
- ② 教職員が一人ひとりの専門性を高めるために研修を受けたり勉強したりできる時間を持てば、会議や行事の進め方を工夫し考えていく必要がある。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 83%以上にする。 R5 81% R6 83% 令和 6 年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を 91%以上にする。 R5 93% R6 97% 令和 6 年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合えている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和 5 年度より 1 ポイント増加させる。 R5 93% R6 94% 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 8 生涯学習の支援】</p> <p>学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。</p>	B
指標 週に 1 回、図書館を利用する。また、年に 2 度読書週間を実施する。	
<p>取組内容②【基本的な方向番号 8 生涯学習の支援】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p>	A
指標 芸術鑑賞行事、3～6 年生で社会見学を確実に 1 回実施する。	
<p>取組内容③【基本的な方向番号 9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>教育方針や教育活動の様子を、「学年だより」等を通してわかりやすく伝える。</p>	B
指標 月に 1 回、学年だより等を地域・保護者に配付する。週 1 回、学年の活動をホームページに掲載する。	

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①東淀川図書館から学期ごとの本の貸し出しや、地域ボランティア「がらがらどん」による読み聞かせ、年に 2 回の読書週間の実施、図書委員による読み聞かせ、読書カードのジャンル別bingoなどの様々な取り組みにより、より多く読書に取り組もうとする児童の姿が去年に比べて増えてきた。図書室を利用しないときには、学級で日常的に読書時間を設定することができた。児童の様子からも、読書が好きな様子がみられる。
- ②計画通り実施することができた。今年度も、芸術鑑賞行事や社会見学、夢授業や出前授業などを通して様々なことを体験でき、心豊かな子どもの育成を行うことができた。また、オンラインでの社会見学や出前授業も実施した。

③本校の教育方針や教育活動を保護者や地域の方に分かりやすく伝えていくために、通年学年通信や学校ホームページにて発信することができた。しかし、学年によっては週に1度ホームページの更新ができなかつた学年もあった。一方、学年通信だけでなく学級通信を発行する学年もあり、保護者に児童の学校生活での頑張りや課題、ねらいなどを新たに伝える工夫をして教育活動を伝える取組を行うことができた。

次年度への改善点

- ①今年度の反省をもとに次年度も、読書週間を行い、児童がより読書に親しめる機会を確保していく。
- ②次年度も、関係機関と連携して、体験活動の充実を図る。オンラインによる社会見学・出前授業などの方法も模索していく。
- ③保護者や地域の方に本校の教育指針や教育活動への一層のご理解・ご協力を今後もお願いできるよう、わかりやすく伝えていけるよう来年度も教職員で発信方法を工夫していく。